

## 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

### 1. 研究課題名

過食症の早期発見と治療支援体制の明確化のための調査研究

### 2. 研究の対象患者

旭中央病院職員のうち、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれかにも該当しない者を対象とする。

#### ・ 選択基準

2019年7月1日～2019年9月30日の期間において、日常診療の一環で当院職員を対象に実施された摂食障害に関するアンケート調査に協力いただいた当院職員。

#### ・ 除外基準

本研究に同意を得られない対象者を除外する。

### 3. 研究の対象期間

2019年7月1日～2019年9月30日

### 4. 研究の概要

摂食障害(Eating Disorders:Eds)は女性に多く、西欧諸国やアジアでも発症年齢の若年化が進み、有病率が益々上昇しており、生涯を通じて、国民の健康、医療経済的問題を呈する。摂食障害の中でも神経性やせ症/神経性無食欲症(Anorexia Nervosa:AN)は、急激な体重減少や心血管障害の合併症を伴いやすく、慢性的、重症となる精神障害であり、致死率は一般人口の約10倍に及び、生命の危機も高い。

EDは、思春期に発症年齢のピークがあり、若年から成人期の女性に多く、体型や体重、食事のコントロールに自己価値の主な領域が占められることを特徴とする精神障害である。主として、神経性やせ症(Anorexia Nervosa:AN)、神経性過食症(Bulimia Nervosa:BN)、過食性障害(Binge Eating Disorders:BED)に分類される。ANの発症年齢のピークは13歳から18歳、生涯有病率は、0.5-2%、致死率は一般人口の約10倍に及び、精神疾患の中で最も高い。BNは、反復する過食エピソード、体重増加を防ぐための不適切な代償行動(自己誘発嘔吐、下剤の乱用など)を特徴とする。BNの発症年齢は、16-17歳、有病率は、0.9-3%と報告されている。欧米では、摂食障害ユニットを受診するAN、BNの平均年齢は若年化の傾向があることが報告されている。日本女性では、ANは有病率0.025%から0.2%、BNは有病率1.9%から2.9%と報告されており、わが国でも1980年代以降増加傾向である。しかし、全国の疫学調査はあまり行われておらず、また、患者の1/3は未受診であり、受診に非協力的な家族や医療機関の乏しさ、医療機関内での意識の相違に苦慮することも多く、早期発見や地域連携の重要性が示唆されている。

本研究では、当院主催の市民健康講座開催にあたり当院職員に対して実施された摂食障害に関するアンケートデータを基に、医療機関内における摂食障害に対する意識を後ろ向きに分析するとともに、市民健康講座参加者へのアンケート調査を行い、疾患の啓発活動の有用性に関して前向きに検討することを目的としている。

### 5. 研究実施予定期間

2019年11月20日～2021年3月31日

### 6. 研究に用いる試料・情報の種類

1. 対象者の職種（医療職、非医療職）
2. 摂食障害のイメージ（過食症、拒食症）
3. 摂食障害で困る症状（中核症状、代償行為）
4. 食事に関して興味があること

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先）地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 神経精神科 大迫鑑顕

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)